

株式会社 UACJ

2022 年度 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2021 年 11 月 4 日



イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ		
[企業 ID]	5741		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2022 年度 3 月期 第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2021 年度 第 2 四半期		
[日程]	2021 年 11 月 4 日		
[ページ数]	43		
[時間]	18:30 - 19:36 (合計 : 66 分、登壇 : 35 分、質疑応答 : 31 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]	108		
[登壇者]	6 名		
	代表取締役社長兼社長執行役員	石原	美幸 (以下、石原)
	取締役兼常務執行役員	川島	輝夫 (以下、川島)
	取締役兼執行役員	田中	信二 (以下、田中)
	経営戦略本部長	隈元	穰治 (以下、隈元)
	財務本部 経理部長	飯田	晴央 (以下、飯田)
	財務本部 IR 部長	岡田	浩三 (以下、岡田)
[アナリスト名]*	SMBC 日興証券	山口	敦
	モルガン・スタンレーMUFG 証券	白川	祐
	野村証券	松本	裕司
	大和証券	尾崎	慎一郎
	UBS 証券	五老	晴信

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasiasia.com



登壇

岡田：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。

本日は、大変お忙しい中、株式会社 UACJ、2021 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この説明会は、株式会社 UACJ のホームページに掲載されております説明資料を使って行われます。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですが、ホームページをご覧ください。

なお、この説明会では、将来の予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は、当社の現時点での予測にすぎません。様々な要因により、実際の業績が、これら当該予測と異なる場合がございますのでご注意ください。

本日の、当社出席者をご紹介します。

代表取締役社長、石原美幸です。

石原：石原でございます。よろしくお願いいたします。

岡田：取締役兼常務執行役員、川島輝夫です。

川島：川島です。本日はよろしくお願いいたします。

岡田：取締役兼執行役員、田中信二です。

田中：田中です。よろしくお願いいたします。

岡田：経営戦略本部長、隈元穰治です。

隈元：隈元です。どうぞよろしくお願いいたします。

岡田：経理部長、飯田晴央です。

飯田：飯田です。よろしくお願いいたします。

岡田：私は、本日司会を務めます、財務本部 IR 部長、岡田浩三でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日発表いたしました、2021 年度第 2 四半期業績、また通期業績見通しにつきまして、社長の石原より説明させていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。

石原社長、よろしくお願いいたします。

石原：皆さん、こんばんは。社長の石原です。本日は、大変お忙しいところ、当社 2021 年度上期決算説明会にご参加をいただき、誠にありがとうございます。今回は、リモートでの決算発表とさ

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



させていただきます。本日は、2021 年度上期の業績、構造改革の進捗、2021 年度通期業績見通し、サステナビリティへの取り組みについてご説明をいたします。

説明終了後に Q&A を行います。時間の許す限り、できるだけたくさんのご質問をお受けしたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それではまず、2021 年度上期業績から説明を申し上げます。

半導体不足、あるいは原材料価格高騰などのサプライチェーンの混乱に加えて、東南アジアでのコロナの感染再拡大など、多くのリスクが足元で発生しております。そんな中で、不透明な環境においても、当社にとって最適なタイミングでの構造改革を実行しながら、いまだ道半ばではありますが、確実に変化に対する対応力、そして、稼ぐ力の向上を果たしてきているものと思います。

その結果が、今回の決算にあらわれておりますので、どうぞお聞きください。

1. 2021年度 上期 業績 業績 サマリー

経常利益 258億円(前年同期実績 △26億円)

■ 数量：前年同期比 大幅増

- UATH^{*1}(タイ)、TAA^{*2}(米国)の缶材が引き続き増加
- 自動車を中心とした輸送用機械向けは需要回復により、増加

■ 経常利益：前年同期比 大幅増

◎増益要因

- 国内事業業績改善(コロナ影響回復含む)
- UATH業績改善
- TAA業績好調継続
- 棚卸資産影響の好転

△減益要因

- 特になし

© UACJ Corporation All rights reserved. *1 UACJ (Thailand) Co., Ltd. *2 Tri-Arrows Aluminum Holding Inc.

3

それでは、2021 年度上期業績サマリーから始めます。

国内事業の業績改善、UATH、TAA の業績貢献に加え、棚卸資産影響の好転もあって、経常利益は 258 億円、前年同期実績のマイナス 26 億円からの大幅増益となりました。

増益要因は、国内事業業績の改善。これは、コロナ影響からの回復を含んでおります。また、UATH、タイの業績の改善、TAA、北米の業績好転の継続であります。あわせて、棚卸資産影響の好転がございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

1. 2021年度 上期 業績

上期 業績

(単位:億円)	2020年度 上期 (A)	2021年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	2,646	3,650	1,004
連結営業利益	△ 11	299	310
棚卸資産影響前 連結経常利益	5	132	127
棚卸資産影響額	△ 31	126	157
連結経常利益	△ 26	258	284
連結当期純利益	△ 51	173	224
Adjusted EBITDA	185	327	142

※ 連結当期純利益: 親会社株主に帰属する当期純利益
 ※ Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

4

それでは、4 ページ目で上期の業績についての数字をまとめておりますので、ご説明申し上げます。

2020 年度上期と 2021 年上期の業績の比較であります。売上高は海外の缶材の販売、国内自動車関連を中心とした旺盛な需要に後押しされ、前年同期比 1,004 億円増の 3,650 億円となっております。営業利益は、前年同期比 310 億円増の 299 億円、経常利益につきましては、前年同期比 284 億円増の 258 億円となりました。

これらの要因につきましては、サマリーと同じでございますので省略いたします。

棚卸資産影響前の経常利益、前年同期比 127 億円増の 132 億円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期比 224 億円増の 173 億円であります。Adjusted EBITDA につきましても、327 億円と増加いたしました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 2021年度 上期 業績

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)	2020年度 上期 (A)		2021年度 上期 (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	2,226	20	3,269	326	1,043	306
加工品・関連事業	779	△ 10	765	2	△ 14	12
(調 整 額)	△ 359	△ 21	△ 384	△ 29	△ 25	△ 8
合 計	2,646	△ 11	3,650	299	1,004	310

© UACJ Corporation All rights reserved.

5

セグメント別の売上高・営業利益を5ページ目にしめしております。

アルミ圧延品の動きにつきましては、全体でお示しをしますので、ここでは省略いたします。

ここでは、加工品・関連事業についてのご説明を申し上げます。

新収益認識基準の適用によって、売上高は前年同期比で減りはしたものの、営業利益につきましては自動車分野の需要回復などによって、前年同期比増加となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



6

1. 2021年度 上期 業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2020年度 上期 (A)	2021年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	359	409	50
箔 地	26	29	3
I T 材	13	7	△ 5
自 動 車 材	50	73	23
厚 板	19	25	6
その他一般材	71	107	36
合 計	537 (国内市場向け 215 海外市場向け 322)	650 (国内市場向け 245 海外市場向け 405)	113 (国内市場向け 30 海外市場向け 83)

© UACJ Corporation All rights reserved. ※内部取引控除後の数量

6

6 ページ目に、アルミ板の品種別の売上数量をまとめております。

2021 年上期におきましては、海外の缶材、国内の自動車材を中心として、幅広い分野で増加をし、前年同期比で 11 万 3,000 トンの増加となりました。

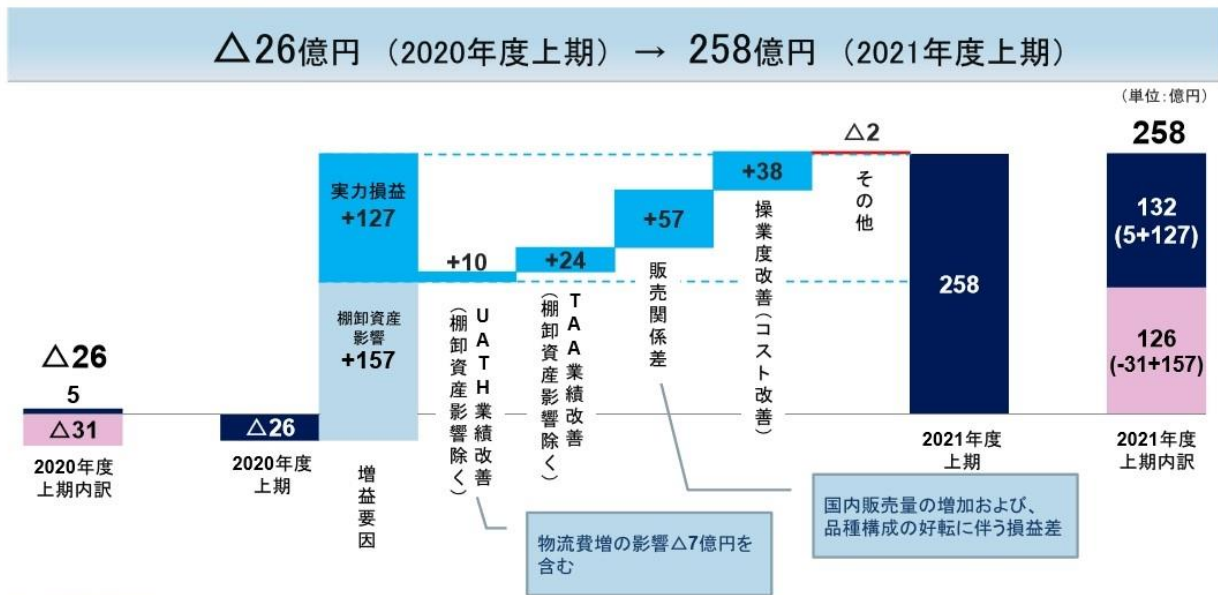
主要な品種、缶材につきましては、このコロナ禍における巣ごもりでの需要に大きな変化はございません。長期的には国内の需要に大きな変動はない反面、グローバル、世界的には需要過多の傾向が続くと想定をいたしております。

自動車材につきましても、大手のお客様を中心として生産の回復があり、厚板におきましても、半導体製造装置向け厚板の需要が大変堅調であります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結経常損益分析 (2020年度上期 → 2021年度上期)



7

7 ページ目に、連結での経常損益の 20 年上期から 21 年上期への変化を示しております。

今回は、両端に 2020 年度上期内訳、マイナス 26 億円、2021 年度上期内訳、プラス 258 億円の内訳を示しております。ピンクの部分が棚卸資産影響であります。実力の損益としての部分が少し黒に見えますけど紫の色になっております。それをマイナス 26 億円から展開をしてみますと、棚卸資産影響がプラス 157 億円、実力損益がプラスの 127 億円となりました。

実力損益の内訳はここにお示ししますように、UATHにおける業績の改善がプラス 10 億、TAA の業績改善がプラス 24 億、販売関係差がプラスの 57 億、それにとまなう操作度の改善、コストの改善を含みますけれども、プラス 38 億でありました。

結果、258 億円。そのうちの実力の部分が 132 億円であります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

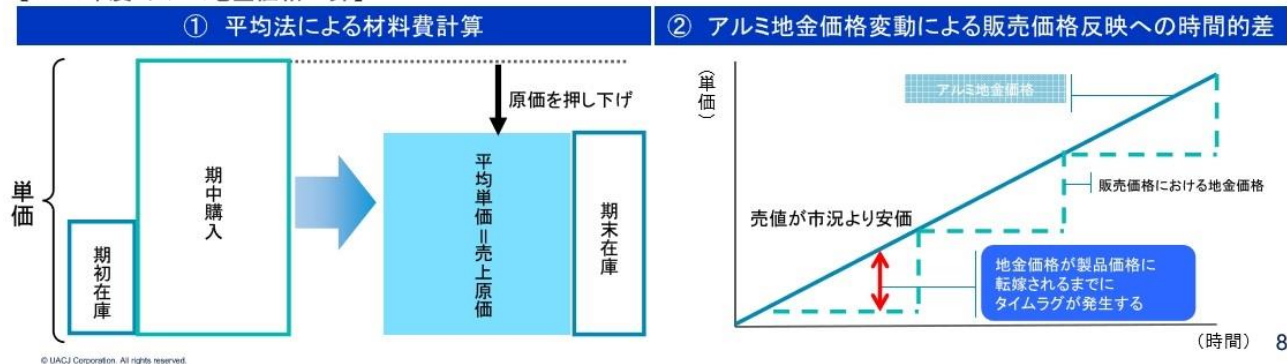
棚卸資産影響

アルミ圧延事業における棚卸資産影響

- ① 平均法による材料費計算
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

①+②= 棚卸資産影響

【2021年度:アルミ地金価格上昇】



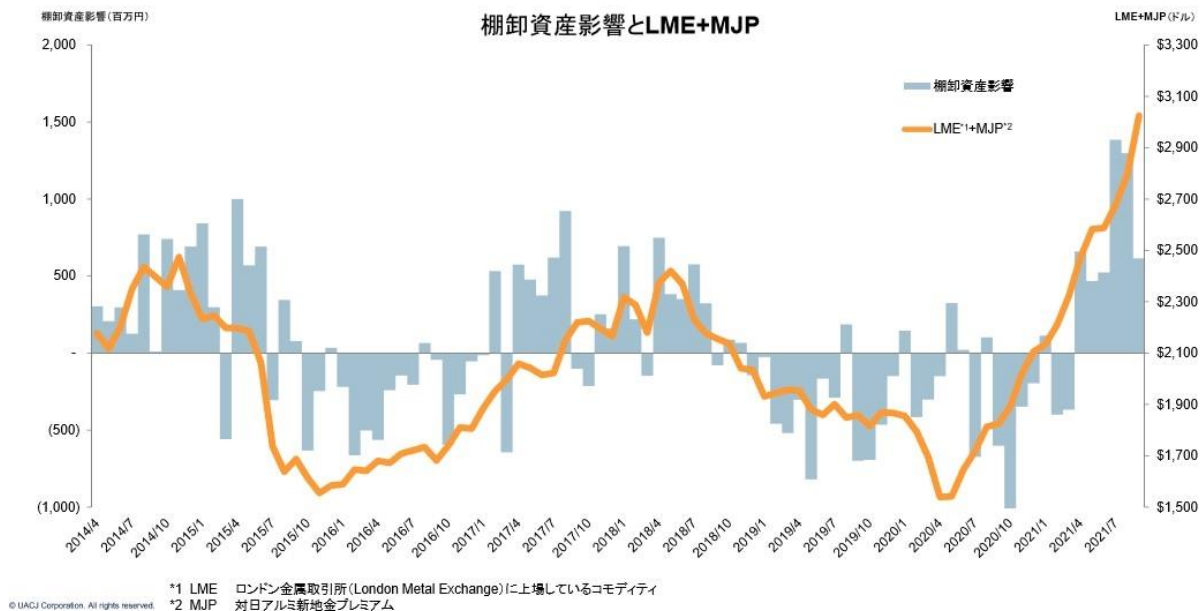
次に、8 ページ目に移って、先ほど申し上げました棚卸の資産影響について、今回少しご説明を申し上げながらご理解を深めていただきたいと思います。

これまで、棚卸関係や棚卸評価など、表現がバラバラであったということがございました。今回の決算より、棚卸資産影響として統一をいたします。その詳細なご説明につきましては、後ほど、担当の川島からさせていただきますので、ここでは割愛させていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

棚卸資産影響と地金価格相場の関係性



9 ページ目に移りますが、その棚卸資産影響と地金価格の相場の関係性についてご説明をいたします。

このグラフは、縦軸が棚卸資産影響額であります。横軸は期間であります。2014 年の UACJ 発足後、現在に至るまでの期間において、棚卸資産影響額がいかほどであったかを示しています。このグラフから読み解けるのは、四半期では棚卸資産影響がプラス、もしくはマイナスに大きく損益インパクトを与えますが、一方で長期の損益インパクトは、プラスとマイナスが相殺されて、ほぼフラットになるということがわかります。

また、当社のビジネスモデルの特性上、地金の変動リスクは一部のボラティリティ価格を除き、ほぼ価格転嫁できるもので、地金価格変動の本質的なリスクは、長期のスパンではほとんどございません。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結貸借対照表

販売の回復、地金価格の上昇により棚卸資産等が増加

	21/3末	21/9末	21/3末比 増減額
現金及び預金	281	288	7
受取手形及び売掛金	1,200	1,376	176
棚卸資産	1,317	1,625	308
その他流動資産	148	200	52
有形・無形固定資産	4,003	3,968	△ 35
投資その他の資産	381	397	16
資産合計	7,330	7,854	524
支払手形及び買掛金	1,011	1,097	86
短期借入金	1,100	1,166	66
長期借入金	2,257	2,104	△ 153
その他	996	1,287	291
株主資本合計	1,775	1,940	165
その他包括利益・支配株主持分	190	260	70
負債及び純資産合計	7,330	7,854	524

(単位:億円)

アルミ地金等
価格上昇による増加

© UACJ Corporation All rights reserved.

10

それでは、10 ページ目にまいります。連結貸借対照表であります。

現預金につきましては、前年度末水準を維持しております。受取手形及び売掛金、棚卸資産は、アルミ地金の価格上昇により増加をいたしました。一方、有利子負債につきましては、短期での借入金、長期での借入金の減少に伴って、合計で 87 億円の減少となっております。株主資本についても、165 億円の増加となりました。

サポート

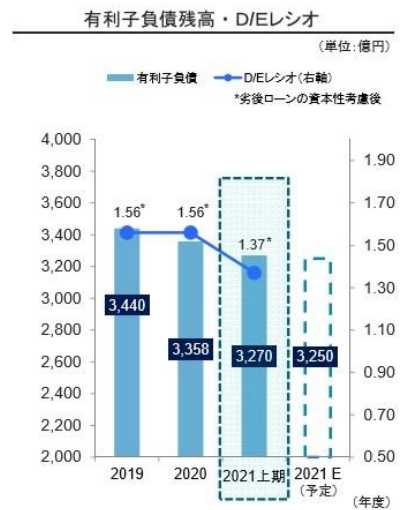
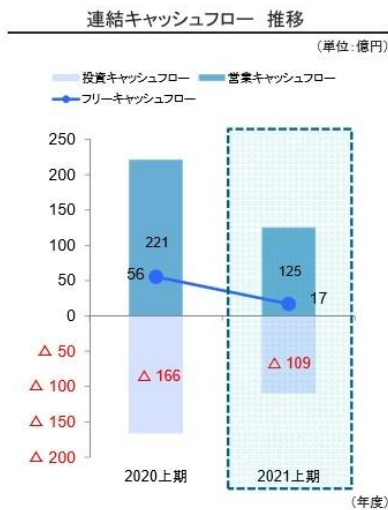
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

1. 2021年度 上期 業績

連結キャッシュフロー計算書

運転資金増加するもフリーキャッシュフロー黒字を維持

税引前利益	254
減価償却費(のれん含む)	168
アルミ地金価格等の上昇による 運転資金の増加他	△ 297
営業キャッシュフロー計	125
設備投資 他	△ 109
フリーキャッシュフロー	17
その他財務CF	79
現預金増減(△は増加)	△ 8
有利子負債の減少	88



© UACJ Corporation All rights reserved.

11

11 ページ目に、連結でのキャッシュフローの計算書をまとめております。

営業キャッシュフローは、税金等調整前当期純利益は 254 億円、減価償却費が 168 億円、販売の回復あるいは地金価格の上昇による運転資金の増加でマイナス 297 億円となり、営業キャッシュフローとしては、125 億円のプラスとなっております。投資キャッシュフローを除きましても、フリーキャッシュフローは 17 億円の黒字でありまして、真ん中の棒グラフにありますように、2020 年度上期と同様、プラスを維持し、そして有利子負債残高につきましては、預貯金水準を前年度末並に維持しつつ、有利子負債を圧縮して、88 億円ほど減少させました。2021 年度上期末の有利子負債残高は 3,270 億円であります。

地金価格は依然として高水準ではありますので、運転資金が増加しております。2021 年度末の有利子負債残高は、前回見通しの 3,100 億円から変更いたします。約 3,250 億円となる見込みであります。

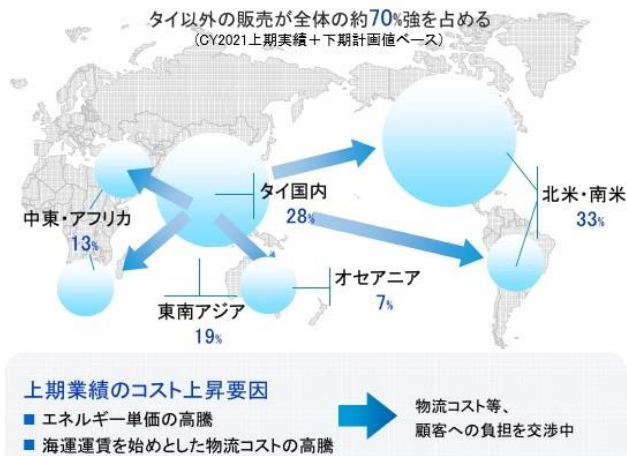
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

タイ(UATH)の状況 ~2021年度 上期総括

缶材に加え、自動車熱交材、エアコンフィン材も最終製品の需要増加により販売が増加

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



上期 総括

需要 : 缶材、自動車熱交材、エアコンフィン材共に、需要は堅調も、缶材の輸出については世界的な輸送遅延の影響を受け一部出荷が遅延

生産量 : 約27千t/月(上期:1~6月)

販売量 : 約27千t/月(上期:1~6月)

損益	(億円)		
	20年度 上期実績	21年度 上期実績	前年同期比
売上高	348	592	244
営業利益	△ 20	34	54
経常利益	△ 18	10	28
棚卸資産影響前 経常利益	△ 15	△ 5	10

12

12 ページ目以降は、各拠点のご説明をさせていただきます。

まず、UATH、タイの状況からご説明申し上げますと、缶材に加えて、自動車熱交材、エアコンフィン材、これらの最終製品の需要増加によって、販売が大きく増加をしております。生産が月産で2万7,000トン。販売も同等の数字が出ます。輸出比率は70%強であります。まだまだ、東南アジアを中心とした地域における需要は50%程度であります。

海外での展開について、少しわかりやすく地図でご説明を申し上げます。北米、南米が33%、その他地域が、ここにお示しするとおりであります。したがって、約70%が海外という比率になります。

需要動向につきましては、引き続き缶材需要が旺盛であります。特に北米を中心とした市場に対して旺盛であり、加えて自動車熱交材、エアコンフィン材も需要が旺盛であり、伴って、販売の状況についても生産と同等量の販売ができております。

ただし、現在、海上の輸送費が大変高騰しております。コストをお客様に転嫁するという交渉を継続しつつ、お客様への価格転嫁の期間短縮も図りながら、早期にコストを回収できる体制を整えてまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

強みである3極連携をフルに活用しながら、旺盛な北米缶需要を取り込み、増収増益

アメリカ国内主要製缶メーカー7社の製造拠点分布

主要製缶メーカーの生産設備拡張は継続
9月だけで100億缶(当社調べ)の増産設備の投資が決定



© UACJ Corporation All rights reserved.

上期 総括

缶材需要 : 旺盛な需要環境継続

販売量 : 約42千t/月(上期:4月～9月)

生産能力 : 約450千t/年体制確立

損益	(億円)		
	20年度 上期実績	21年度 上期実績	前年同期比
売上高	618	1,108	490
営業利益	29	163	134
経常利益	17	151	134
棚卸資産影響前 経常利益	33	57	24

13

次に、北米、TAAであります。強みである3極の体制、これは北米の大変旺盛な缶材需要をとらえるために、日本、そしてタイ、東南アジアを3拠点で結んで、アメリカに輸出をするという関係が大変うまく回るようになってきました。そういった旺盛な北米缶需要を取り込んで、増益増収となっています。

販売は約4万2,000トン/月であります。生産能力は、年間で45万トンありますので、現在、新冷間圧延機もフル稼働であります。

市場動向としては、缶材をお使いいただける製缶メーカーさんですが、ここのキャパシティは既にフルで供給が追いつきません。したがって、左側に示しますように、主要製缶メーカーさんの設備の能力が拡大されつつあります。おおよそ、北米においては920億缶の需要がありますが、9月だけでも、加えて100億缶の設備の増強が投資として決定されております。今後24年には、プラス300億缶までになるという予測が出ております。

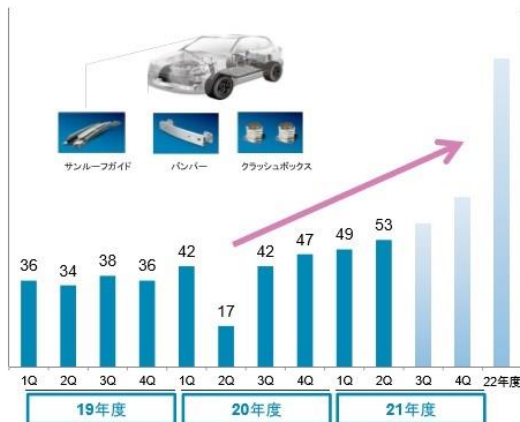
こういった中で、足りないものを海外から空缶として輸入するという状況が、北米においては続いており、空缶由来のUBCが、スクラップマーケットに出てくる。これによって、スクラップ価格が押し下げられていくという、当社にとってはいい状況が続いております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

EV向けアルミ構造部品の受注量増加に加え、新規量産品が4Qから販売開始

UWH 売上高推移(単位・億円)



*1 UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc.
 *2 20年度上期…2020年1月～6月
 *3 21年度上期…2021年4月～9月

© UACJ Corporation All rights reserved.

上期 総括

- 需要 : コロナの減産から需要が回復基調
各OEM・新興EVメーカーから増産要求あり
- 販売 : 新興EVメーカー向けを中心に着実に増加
→2022年度より既受注増車種の量産開始
- 生産体制 : アリゾナ州新工場は稼働準備が整う
顧客の稼働待ち

(億円)			
損益	20年度 上期 ^{*2} 実績	21年度 上期 ^{*3} 実績	前年同期比
売上高	58	102	44
営業利益	△ 15	△ 8	7
経常利益	△ 17	△ 9	8

次に、14 ページ目、自動車部品事業であります。

北米、Whitehall の状況ですけれども、主にバンパーを中心として生産しております。EV 向けのアルミ構造部材の受注量の増加に加えて、新規の量産品が4クォーターから販売開始されます。北米においては、コロナの減産から需要が回復傾向にあり、各OEM様、そして新興EVメーカー様からの増産要求が多くあります。これに対応するべく、生産体制を拡充しております。

アリゾナの新工場においては、稼働準備が整い、お客様の生産拠点の稼働を待つばかりとなっております。今後、自動車部品事業については、中南米地域からの日系のOEM様向けのバンパー製造も含めて、順調な立ち上がりをしていきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2. 構造改革の進捗

構造改革の進捗

各施策はロードマップに沿って計画通りに進捗



© UACJ Corporation All rights reserved.

16

それでは、2項目目、構造改革の進捗についてお話を申し上げます。

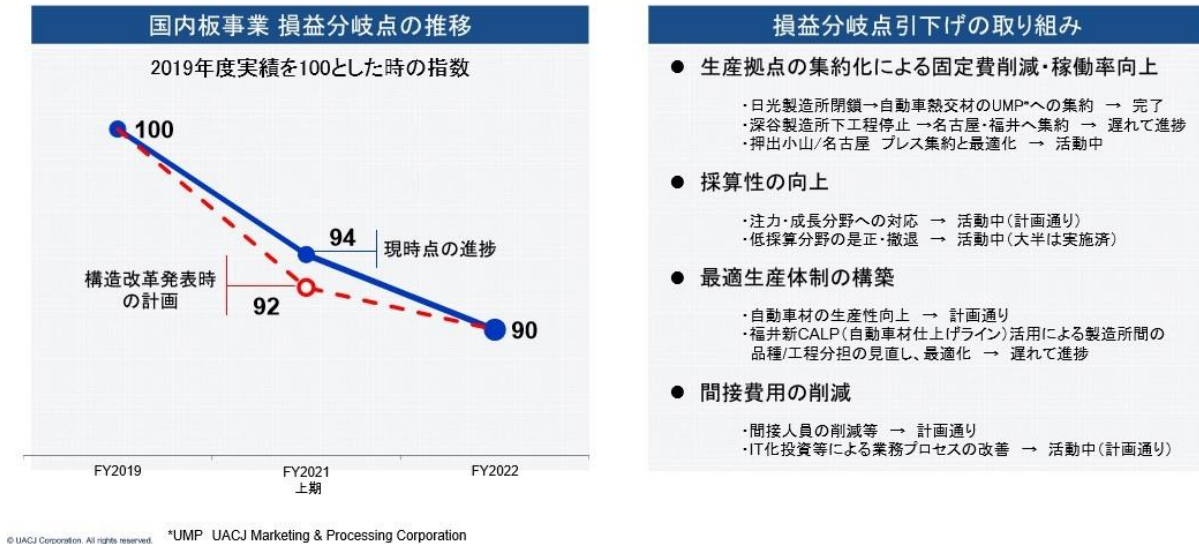
各施策は、16 ページ目のチャートに示しますように、ほぼ順調であります。一部、生産拠点の集約が、自動車材のコロナ禍影響もあって遅れております。この進捗状況を 17 ページ目に数字であらわしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

構造改革施策の効果

損益分岐点の推移は今までの構造改革の取り組みにより、着実に下がってきている



2019年の実績を指数で100としたときに、2022年に90までもっていく。そのときの21年度上期の状況は92までもっていこうと考えておりましたが、現在94の状況でございます。ここへの対策としては、右に損益分岐点を引き下げるための取り組みということでまとめております。一部、自動車材のコロナ禍における影響からお客様の認定が遅れていることもあって、福井製造所への集約が一部遅れ、名古屋製造所での稼働が続いているという状況を、遅れと表現しています。

追加施策によって、22年には目標通りの損益分岐点まで達成させるという決意でございます。

コロナの影響もあって、構造改革立案時と、マーケット環境は必ずしも一致しておりませんが、自動車部品というのは、必ずアルミへの変更がなされていくと考えております。損益分岐点の引下げも、足元、計画通りにしっかりと対応していきたいと考えます。

結果として、環境には左右されづらい企業体質に変わりつつある。当社、今後とも引き続き、稼ぐ力の向上に取り組んでまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2. 構造改革の進捗

構造改革実施による収益改善効果

追加施策実施により、構造改革効果は210億達成に目途

	構造改革発表時 (2019年9月)	第3次中計発表時 (2021年5月)	最新見通し
国内：収益構造改革	+100億円	+67億円	+96億円
生産拠点集約	+40億円	+34億円	+23億円
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+25億円	+65億円
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+8億円	+8億円
海外：大型投資収益化	+110億円	+118億円	+114億円
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+76億円	+76億円
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+19億円	+19億円
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	+23億円	+19億円
構造改革効果	+210億円	+185億円	+210億円

© UACJ Corporation All rights reserved.

18

18 ページ目に、210 億円の構造改革効果を説明しておりますが、21 年の 5 月の時点で 185 億までのめどが立ったというお話をしました。現在、最新の見通しでは、計画通りの 210 億円の達成を見ております。これが、先ほどの板全般におけるロールマージンの改定や、さらなる製造コストダウンの追加施策によって、損益分岐点を下げることにより、当初目標の 210 億円まで達成できるめどにつながったわけでありませう。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2. 構造改革の進捗

構造改革効果の推移

製造コスト低減、ロールマージン改定などの追加施策により、構造改革発表時の目標達成に



© UACJ Corporation All rights reserved.

19

19 ページ目には、構造改革効果の進捗をグラフで示しております。

先ほど申しましたように、22年には目標通りの210億円を必達するという心意気で、あるいはそのめどが立ったことをご報告申し上げます。

サポート

日本

03-4405-3160

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptasia.com

3. 2021年度 通期業績見通し

2021年度 通期業績見通し

(単位:億円)	2021年度 (5月時見通し) (A)	2021年度 (8月時見通し) (B)	2021年度 (最新見通し) (C)	2020年度 (D)	増減 (C)-(A)	増減 (C)-(B)	増減 (C)-(D)
連結売上高	6,600	7,000	7,500	5,698	900	500	1,802
連結営業利益	220	330	500	111	280	170	389
棚卸資産影響前 連結経常利益	99	134	210	62	111	76	148
棚卸資産影響額	61	116	190	△ 2	129	74	192
連結経常利益	160	250	400	60	240	150	340
連結当期純利益	80	120	200	△ 33	120	80	233
Adjusted EBITDA	508	549	630	447	122	81	183

© UACJ Corporation All rights reserved.

21

それでは、通期の見通しについて、21 ページ目からお話を申し上げます。

21 年度の通期業績見通しですけれども、TAA の収益拡大、国内事業の収益好転、これは構造改革効果を含みます。あるいは、アルミ地金価格上昇による、棚卸資産影響の好転等々があります。

一方で、グローバルでの新型コロナウイルスの再拡大や、サプライチェーンのひっ迫、半導体不足等の影響など、まだリスクを見ておりますので、これを一定量織り込みながら、通期の見直しをしました。

売上高は 7,500 億円、営業利益 500 億円、経常利益 400 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 200 億円といたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

3. 2021年度 通期業績見通し

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2021年度 (5月時見通し) (A)	2021年度 (8月時見通し) (B)	2021年度 (最新見通し) (C)	増 減 (C) - (A)	増 減 (C) - (B)
缶 材	845	847	842	△ 3	△ 5
箔 地	59	58	59	0	1
I T 材	19	18	17	△ 3	△ 1
自 動 車 材	155	157	148	△ 7	△ 9
厚 板	49	51	53	4	2
その他一般材	201	211	212	11	0
合 計	1,328 国内市場向け 505 海外市場向け 824	1,342 国内市場向け 504 海外市場向け 838	1,330 国内市場向け 492 海外市場向け 838	1 国内市場向け △13 海外市場向け 14	△ 12 国内市場向け △12 海外市場向け 0

© UACJ Corporation All rights reserved.

22

22 ページ目に、アルミ板材の今後の見通しをつけておりますけれども、これはご参照いただきたいと思えます。

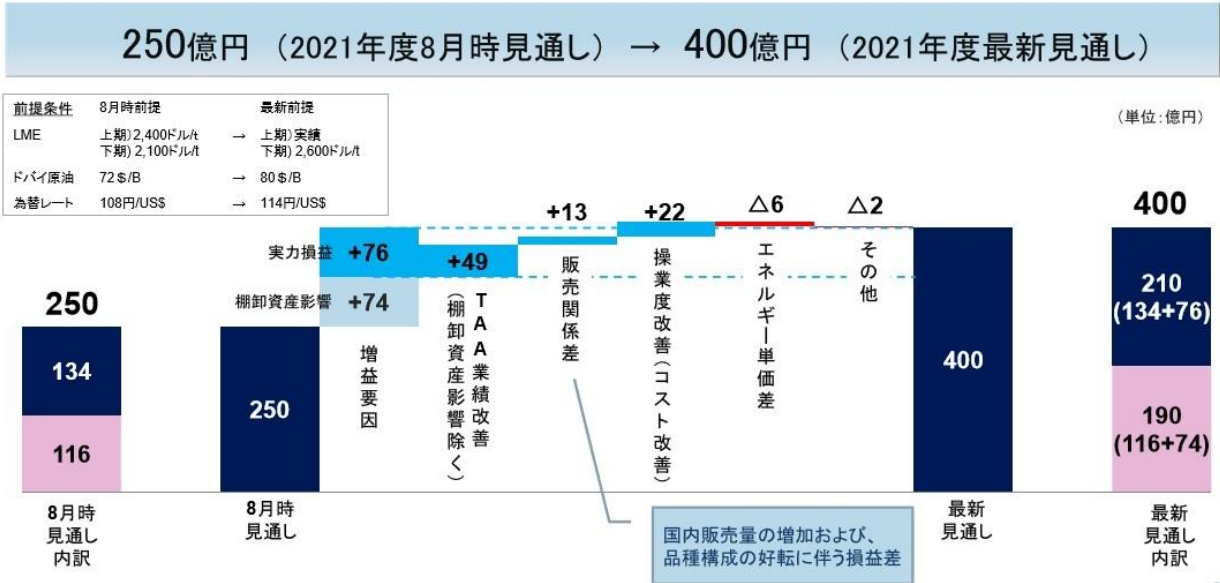
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



3. 2021年度 通期業績見通し

連結経常損益分析 (2021年度8月時見通し → 2021年度最新見通し)



23

23 ページ目には、250 億円から 400 億円、これは、21 年 8 月時点の見通しからの変化をウォーターフォールで示しております。見方は、先ほどと同じように、棚卸資産影響、そして実力損益を分けて表示しております。

このように、実力ベースでも 76 億円の増益が見込める状況になってまいりました。一部、エネルギーの単価の上昇が見込まれますので、その分も含めております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

3. 2021年度 通期業績見通し

アルミ板 品種別売上数量(2020年度 対 2021年度最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2020年度 通期 (A)	2021年度 最新見通し (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	693	842	149
箔 地	52	59	7
I T 材	25	17	△ 8
自動車材	123	148	25
厚 板	42	53	12
その他一般材	180	212	32
合 計	1,113 国内市場向け 441 海外市場向け 673	1,330 国内市場向け 492 海外市場向け 838	216 国内市場向け 51 海外市場向け 165

© UACJ Corporation All rights reserved.

24

24 ページ目には、アルミ板品種別の売上数量について、2020 年度と 21 年度の対比でつけております。主に缶材で大きく増加が見込まれます。日本国内の需要は、全体では横ばいとしており、UATH、タイ、TAA、北米における缶材の売上数量が増加と見込んでおります。

サポート

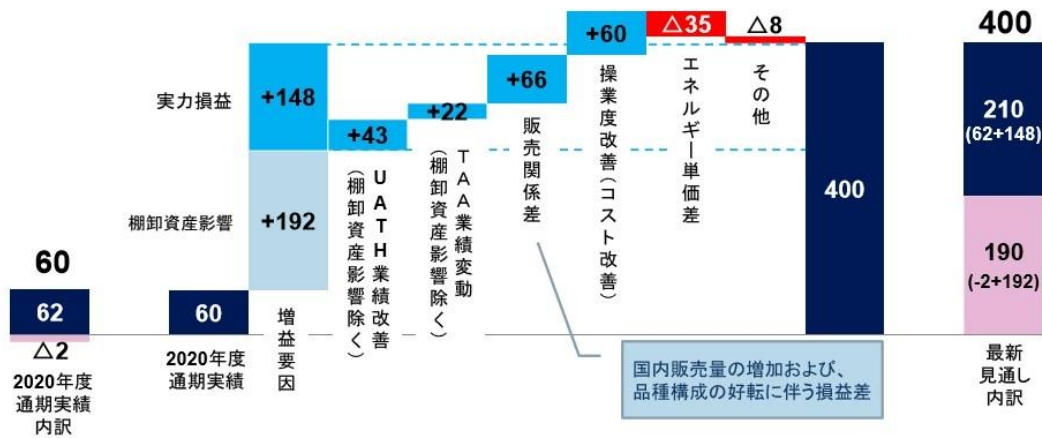
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com



連結経常損益分析 (2020年度 →2021年度最新見通し)

60億円 (2020年度) → 400億円 (2021年度最新見通し)

(単位:億円)



© UACJ Corporation. All rights reserved.

25 ページ目を見ていただきますと、連結の経常損益、60 億円、2020 年度から、400 億円、21 年度への見通しをウォーターフォールで示しております。ここも同様に、棚卸資産影響と実力損益を分けて見ております。

一番右の最新の見通しの内訳にありますように、実力損益 210 億円、棚卸資産影響 190 億円というように、実力の損益が、棚卸資産影響を上回って、合計 400 億円になる見込みであります。

設備投資・減価償却費

減価償却費の約7割が設備投資額の上限
気候変動対策等へ一定額を配分し、計画的に進める

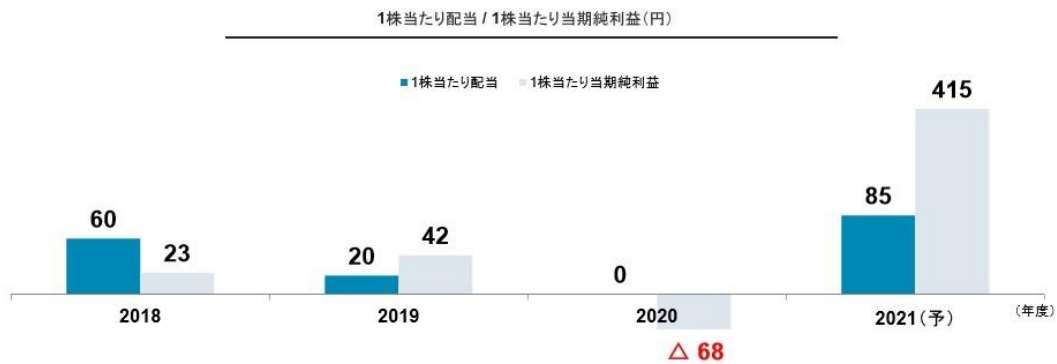
(単位:億円)		2020年度 上期	2020年度 通期	2021年度 上期	2021年度 最新見通し
設備投資	一般投資	61	109	76	210
	戦略投資	39	72	34	88
	合計	100	181	110	298
減価償却費		166	334	169	349

26 ページ目には、設備投資・減価償却への考えを、最新の見通しとしてあらわしておりますけれども、これはほぼ計画通りでありますので、割愛をいたします。

株主還元

好調な市況による業績改善により45円増配し、1株当たり配当金を85円とする

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す



© UACJ Corporation All rights reserved.

27

27 ページ目には、株主還元、配当についてのご説明であります。

今回の通期業績予想の上方修正に伴い、年間配当予想を、当初の40円から45円増額修正をし、85円に引き上げをいたします。株式価値向上のため、確実な利益、キャッシュフローの確保とあわせて、引き続き資本市場との対話を継続して実施してまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

外部環境の変動と当社の対応

外部環境の変動に柔軟に対応し、影響を最低限にとどめるべく施策を実行

外部環境の変動	当社事業へのリスク	対応
半導体不足や東南アジアのサプライチェーン混乱の影響	自動車部品の販売量減による売上高減少	お客様の生産動向を注視しながら、製販一体となった活動を展開していく
添加金属の調達・価格高騰リスク	マグネシウム、メタルシリコン等、添加金属の調達及び、価格高騰による利益圧迫	2021年度に使用する添加金属については調達済 今後も売価の適正化や省材化に取り組む
物流費の高騰	コンテナ価格高騰による海上輸送コストの高騰	お客様と物流費を価格に転嫁出来るような契約条件の変更交渉を進めている
新型コロナウイルスの感染拡大	ロックダウンでの工場の閉鎖、また稼働率の低下を起因とする販売量の減と売上高の減少	ベトナム工場*が一時的に稼働を制限。 10月より生産再開し、10月末時点において9割程度の稼働状況
北米飲料缶需要の拡大	新規投資時期の後ずれによる販売機会の損失	様々な施策を検討中

© UACJ Corporation. All rights reserved. *UACJ Foundry & Forging (Vietnam) Co., Ltd.

28

28 ページ目には、様々な外部環境の変化と当社の対応について、主なものをまとめております。

外部環境の変動、例えば、半導体不足、東南アジアにおけるサプライチェーンの分断、あるいは添加金属の調達・価格高騰リスク。最近では、マグネシウム、メタルシリコン等の調達に関するリスクが生じました。ここを具体的に申し上げますと、2021年度に使用するこれらの添加金属については、全て調達が済んでおります。今後も売価の適正化や、あるいは省材化に向けて取り組んでまいります。安定した操業ができるよう、最大の努力を図ってまいります。

北米飲料缶需要の拡大とありますが、これは、リスクと機会のうちの、当社にとっての機会ととらえております。様々な施策の検討を行っております。

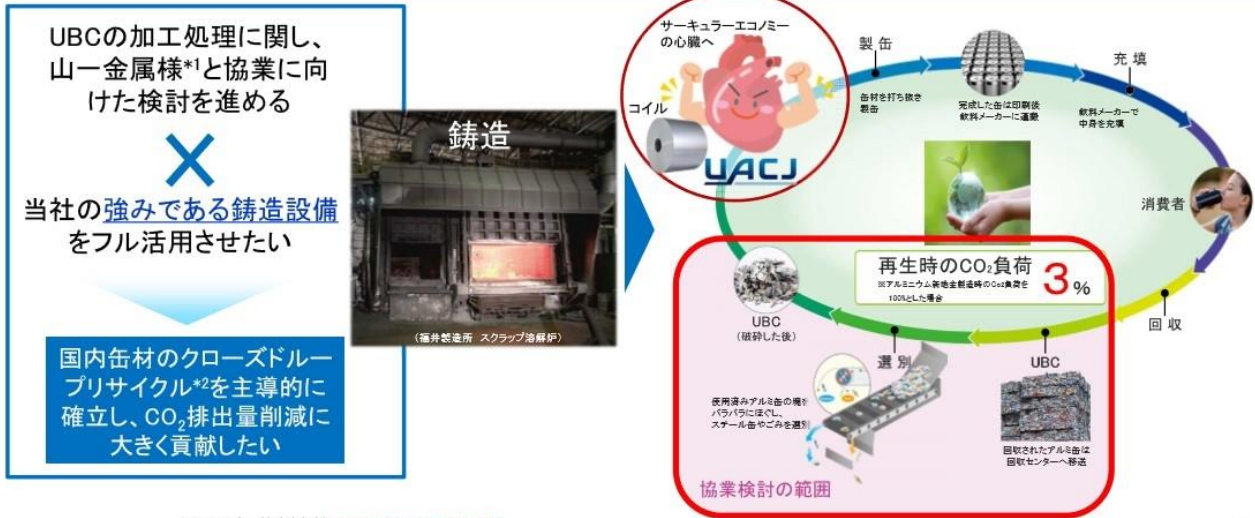
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

4. サステナビリティへの取り組み

UBCの一貫処理体制構築への取り組み(CO₂排出量削減)

アルミニウム製品の環境負荷低減サイクルの構築を国内で推進



*1 山一金属株式会社様 <https://yamaichi-metal.com/>
 © UACJ Corporation All rights reserved. *2 クローズドループリサイクル 素材として再利用するリサイクル。不純物を除去することにより、同じ素材として循環利用するリサイクルを指す

最後に、サステナビリティへの取り組みで、30 ページ目には、当社が掲げる VISION 2030 における、2030 年までの CO₂ 排出量の削減計画の中の、いわゆるスコープ 3 に該当する部分であります。原材料のリサイクル化であります。当社は、山一金属株式会社様と、当社の目指す方向性を一緒にし、そして、リサイクルにおける UBC、いわゆる Used Beverage Can の活用において、その処理事業における協業を合意いたしました。

今後は、この協業を通じて、国内アルミ缶を再びアルミコイルとして製造、出荷する。クローズドループリサイクルを主導的に確立し、CO₂ 排出削減への貢献を目指していきます。この 30 ページ目の右上の絵にありますように、当社がアルミニウム製品のサーキュラーエコノミーの心臓になるべく活動してまいります。

これは、缶材から自動車材につなげる。あるいは、その他の材料にどんどんこのリサイクルの仕組みを展開してまいる所存であります。まずは第一歩として、飲料缶から始めてまいります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

4. サステナビリティへの取り組み

ラヨン製造所 太陽光発電システム導入

世界最大級*1の太陽光屋根置き発電システムを導入し、工場稼働に必要な電力に充当



ラヨン製造所(UATH) 太陽光パネル設置イメージ

太陽光パネルの設置容量等

太陽光パネル設置容量	18MW
発電電力量	約25GWh/年 (日本の一般家庭約7,900戸分に相当)
CO2削減量	約1.4万t-CO ₂ /年 (ラヨン製造所の年間総排出量の約6%に相当) (タイ政府公表値 CO ₂ 排出係数(0.566kg/kWh)で算出)
太陽光パネル総面積	約8.7万㎡

持続可能で豊かな社会の実現に向け、環境負荷軽減への取り組みを積極的に推進

© UACJ Corporation All rights reserved.

*1 2021年6月8日時点、関西電力株式会社調べ

31

31 ページ目には、ラヨン製造所、タイの UATH における太陽光発電システム導入についてのご説明
であります。これも CO2 排出抑制に関する当社の取り組みの一つであります。

サポート

日本

03-4405-3160

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com

4. サステナビリティへの取り組み
気候変動への対応

TCFD*1提言への賛同を表明し、気候変動への対応をより一層強化



2021年9月にTCFD提言へ賛同を表明、
同月にコンソーシアムへ加入

TCFDの提言に基づき、積極的な情報開示を継続して実施

ガバナンス	気候変動対策推進委員会(2021年4月～)を設置 経営層によるガバナンス体制を強化
戦略	目標達成に向けてロードマップ作成を進行 来年度以降、継続的な開示・報告を計画
リスク管理	組織横断的なメンバーで、リスクと機会を特定し、 TCFDの枠組みに沿うシナリオ・ロードマップの作成を進行
指標と目標	2030年度におけるサプライチェーン全体でのCO2排出量を、2019年度比 22%削減(BAU*2比)と設定 目標達成に向けて、施策を検討中

(ご参考)
2021年9月15日付リリース「[気候関連財務情報開示タスクフォース\(TCFD\)提言への賛同表明、およびTCFDコンソーシアムの参画について](#)
2021年度版統合報告書 P41～42記載

*1 TCFD 気候関連財務情報開示タスクフォース。Task Force on Climate-related Financial Disclosures
*2 BAU 何も対策を講じずに現状(生産量、品種構成)を維持した状態。Business as usual

© UACJ Corporation All rights reserved.

32

32 ページ目には、こういった気候変動への対応として、TCFD 提言への賛同を表明し、気候変動への対応をより一層強化してまいります。日本国、環境省における気候変動関連リスク・機会を経営戦略に織り込むべき取り組みが採択され、当社もその1社に選ばれながら、今後の展開をしてまいります。

以上でありますけれども、先ほど、ご説明申し上げましたように、棚卸資産の評価について、影響額について川島から説明を申し上げます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



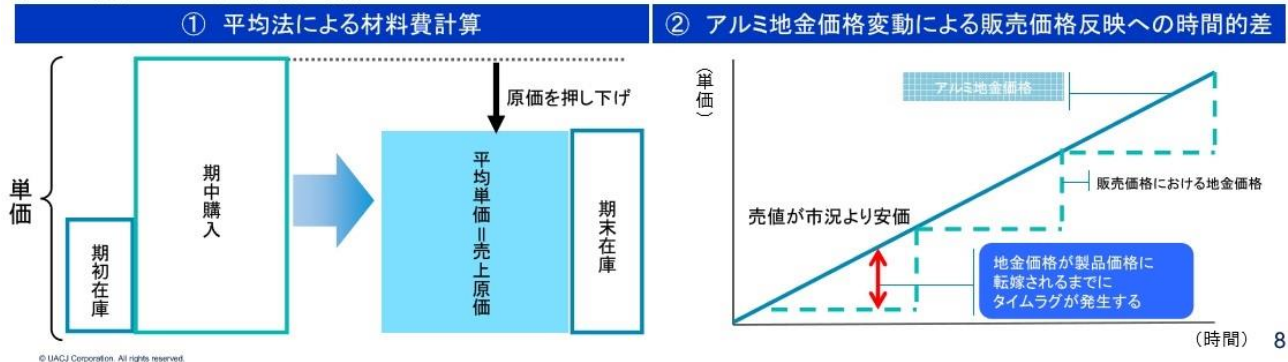
棚卸資産影響

アルミ圧延事業における棚卸資産影響

- ① 平均法による材料費計算
期首在庫と期中購入アルミ地金の加重平均で、材料費を計算(期首在庫が影響)
- ② アルミ地金価格変動による販売価格反映への時間的差

①+ ②= 棚卸資産影響

【2021年度:アルミ地金価格上昇】



(時間) 8

川島：では、川島からご説明申し上げます。今、社長からありましたように、棚卸資産影響についてご説明すべく、スライドを1枚作っております。8ページをご覧ください。

棚卸の影響について、二つの要因がございます。

まず一つは、平均法による原価計算ということです。もう一つは、日本、海外ともご承知のようにアルミ圧延品は地金価格が全て反映されているとは言いながら、変動がありますので時間差があります。この二つを棚卸資産の影響額というかたちで出てまいります。

2021年につきましては、ご承知のように、アルミ地金が大変上がっております。そういったときに、何が起きているかを説明するものが、①平均法による材料費計算です。

お客様は、売価計算上、移動平均法というかたちで、平均をとっています。繰越の在庫と今期の購入の在庫、それを全部ミックスして、加重平均したかたちで材料費を織り込むとしています。

ここに書いているのは、期中の在庫購入が市況でございますから、このベースで、売値価格が決まりますが、原価計算上は、期中に大変競争力のある在庫を持っていますので、それがプラスに影響します。他方で、2番、地金価格の変動はお客様に転嫁出来ませんが、どうしても時間差があります。3カ月、4カ月、地域で違いますけれども差がある。その分だけは、逆に価格の上昇が後になりますから、これは逆にマイナスに効いてくる。

①と②は反比例です。今年度につきましては、この①と②をネッティングすると、棚卸資産影響額というかたちで、先ほど社長からもありました、190億が出ると考えていきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

あらためてご理解いただきと思い、ご説明しました。

以上です。

岡田：当社からのご説明は以上でございます。

サポート

日本

03-4405-3160

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptasia.com



質疑応答

岡田：最初のご質問者をご紹介します。

SMBC 日興証券株式会社、山口様、ご質問をお願いいたします。

山口：3点教えてください。

1 問目は、いつもお聞きしていますけど、通期の TAA と UATH と Whitehall の売上高と営業利益と経常利益を教えてください。これが1 問目です。

川島：TAA の年間売上高が 2,388 億円、それから営業利益が 237 億円、それから経常利益が 212 億円。それから、UATH が、売上高が 1,365 億円、それから営業利益が 76 億円、経常利益が 31 億円です。それから、Whitehall ですけれども、年間売上高が 240 億円、それから営業利益がマイナスの 8 億円、経常利益はマイナスの 11 億円と予想しております。

山口：2 問目は、カイザーアルミとかアーコニックとかノベリスなど、北米のほうで圧延ミルの能力増強が次々と出ております。先ほど、将来のリスクというところに、機会損失になってしまうかもしれない、というところがありますが、例えば、ブラウンフィールドみたいなかたちでの拡張はできるのでしょうか。

それとも、例えば、もうスペースがないから、グリーンフィールドみたいな感じになるのでしょうか。グリーンフィールドだと、UATH のケースでは、1,000 億円ぐらいかかっていますが、そういうのも踏まえて、どういうふうに行うか。例えば、ブラウンフィールドで、マイナーチェンジで能力を上げることも可能なんですか。

そういうことも含めて、TAA 能力に関して、ちょっと何かヒントを教えてください。

石原：石原から回答させていただきます。北米の圧延能力不足している部分があり、ここが全体のネックだろうと思っております。当社が北米での事業を行う際には、グリーンフィールドよりもブラウンフィールドが当社にとって有利であると考えます。したがって、新たな能力増強はブラウンフィールドが当社にとって強みを生かせるものになると考えます。

山口：よくわかりました。3 点目なんですけど、今期、いわゆる棚卸前の利益が非常に伸びているんですけども、この中に、例えば一時的にスプレッドを拡大しているような一過性の利益は入っていますか。それとも、これは本当に実力がついてきて、こういう利益になっているという認識でいいのでしょうか。これが最後です。

石原：石原ですけれども、継続して稼ぐ力がついていていると考えます。

山口：どうもありがとうございました。

岡田：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、モルガン・スタンレーMUFG 証券株式会社、白川様です。ご質問をお願いいたします。

白川：モルガン・スタンレー証券の白川です。簡単に私も 3 点よろしくをお願いいたします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



まず、1点目が、北米、TAA なんですけれども、こちらは1Qから2Qにかけて、かなり増益しているようですが、この増益の背景について何がよかったのかというところを教えてください。

あと、今回、期初見通しからも、TAA をかなり引き上げておりますので、たぶん1Qから2Qの説明にもあるかと思うんですけれども、何がいいのか、何が上振れていて上方修正になっているのかといったところも教えてください。

それから、2問目が、18ページ目を見ての質問になるんですけれども、今回、この構造改革のところの見直しをされたと思うんですけれども、この背景を教えてください。

特に、この国内の2番目の最適生産体制、それから品種構成改善といったところで、最新の見通しでかなり上方修正されているかと思えます。ただ一方で、説明の中ではコロナの影響で、福井のCALP なんかも、やや遅れて進捗という話もありましたので、プラスマイナスいろいろあるのかなと思うんですけれども、それぞれの項目でそれぞれ背景を教えてください。

それから、最後、3点目なんですけれども、添加材料のコスト増、金属シリコンとかマグネシウムといったところの話もありましたけれども、そういったところが、どれぐらい影響があるのか。それに対して、価格転嫁といったところは、しっかりとできていくのかどうかといったところを教えてください。

3点、以上です。よろしくお願いいたします。

川島：では、私から概略をご説明します。まず、全般として、北米につきましては、今までどおり、缶材については、大変需要が旺盛で、作り切れないというところなんです。何がよかったかという、やはり需要がいいということとあわせて、原材料です。有利な原材料を集められているということで、当初の目標から抑えられて仕入れられたこと、これが大変プラスに効いているというところなんです。

他方で、若干マイナスのところは、アメリカ国内でも需要がタイトなのですけれども、トラックの輸送が滞っております。滞留するほどではないですけれども、物が送れないということで、本当はもうちょっと売上高を上げられたのですが、ここが少しマイナス要因。

だけでも、やっぱり大きいのが、できるだけ安価な原材料が手に入っているということがある、とご理解ください。

以上です。

田中：それでは、田中から今回の構造改革の内容についてご説明させていただきます。

資料の18ページのところに、詳細の記載がございます。今回、見直しを行った、あるいは追加施策を積み上げたところは主に、国内の板事業というところ。そこに記載のあるとおり、特に、最適生産体制、それから品種構成改善のところ大きく見直しをしてプラスとなりました。中身は、特に、収益率の高いものにシフトしていくということで、品種構成の見直し。あるいは、板製品のロールマージンの価格見直し等々が大きく寄与しています。

そのほかに、最適生産体制と品種構成改善のところ大きくプラスになっています。一方で、生産拠点を集約のところでは若干のマイナスになっておりますが、先ほど来出ております自動車材の関係です。こういうところが少しマイナスに寄与したという状況であります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



石原：副原料は、複雑な要因がございますが金額的なところは差し控えさせていただきます。

以上です。

白川：わかりました。どうもありがとうございます。

岡田：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、野村証券株式会社、松本様です。ご質問をお願いいたします。

松本：野村証券の松本でございます。

1点目が、先ほど川島さんからお話がありました、アメリカのいわゆる安価な原料が、いい条件がとれたということなんですけれども、これがどれくらい持続可能なのかと。例えば、アルミの地金が下がった場合に、それでも空缶で持っているものが溢れてくるので、わりと続くのか。その辺の考え方を教えてください。これが1点目です。

2点目は、国内の23ページの上方修正のところ、販売関係差13億円、操業度改善22億円、この辺、何かもし内訳があれば教えてください。

以上です。

石原：一つ目は、北米TAAにおける原料コスト、安価にスクラップを購入できたことを申し上げたことに対するご質問でございますけれども、これは、空缶が北米に入ってきている、つまり北米におけるスクラップの量が増える、それが全体を押し下げているということになります。

川島：二つ目は、先ほど、今期の元々の見通しに対して、上方修正といたしました。販売と操業度、細かい内訳がございます。先ほどの話でも、前のページに、販売数量がありますので、それをベースに考えると、当初の見通し、当初はコロナの影響がどのようになるかわからないことをコンサバティブに見込んでおりましたが、上期、自分たちが思ったよりも好調でありました。それにあわせて工場の操業の状況もずいぶんと好転してきているというかたちで、操業度、コストダウンになるというかたちにしております。

松本：どうもありがとうございました。

岡田：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、大和証券株式会社、尾崎様です。ご質問をお願いいたします。

尾崎：大和証券の尾崎です。

2点質問なんですけれども、まず、上期から下期にかけて、在庫評価影響を除く実質ベースの経常利益が減益になるご計画に見えるんですけれども、この背景を教えてください。

2点目が、中国の電力不足で、マグネシウムとかシリコンが不足しているというところ、価格転嫁に取り組むというお話がありましたけれども、そもそも来年度以降の調達が可能なのかどうかというところ。御社の操業に、何らかの制約の要因になる可能性はないのか。この点を確認させていただきます。

以上、2点です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



話者：川島のほうから。

川島：上期から下期に関してですけれども、まず棚卸資産影響以外のところで見ると、上期、下期にかけて、数量がほとんど横ばいで見えていますが、原材料の関係があります。それから、金額はなかなか申しにくいですが、先ほどの添加金属の価格が少し上がってくるというかたちで数字を見ています。

それから、一部、営業外が下期に出てくるだろうと見込んでおりました、上期と比べると下期のほうが、若干、棚卸影響前の利益が少し落ちるだろうと。若干、コンサバティブに見ている部分があるかもしれませんが、そういうかたちで見えております。

石原：マグネシウム、シリコンの不足ということが、価格以外のところで継続性があるかということでしたけれども、現在、マグネシウム、シリコンにおいても、中国における生産の状況は好転してきています。既にマグネシウムは50%以上の操業度に戻っておりますので、全体的に枯渇すること、中国の国内における生産も含めて考えられないと思います。

したがって、電力の長期的な需給というのは当然出てくると思うんですけれども、われわれが操業に対して不安定になる状況にはならないと思っております。

尾崎：ありがとうございます。下期の見通しについては、数量は横ばいですが、添加金属のコストとか、原燃料のコストが上がると。そういったところを少し保守的に見られているという理解でよろしいですか。

川島：エネルギーで見ると、今、足元は、原油価格が上がってきていますから、上期から比べれば、エネルギー代は上がってくるだろうと見ています。そこらへんは全部織り込んで、今回の数字を作っておりますので、上期と比べればそこら辺はコストアップになるものと考えております。

尾崎：わかりました。ありがとうございました。

五老：UBS証券の五老です。よろしくお願いします。

価格交渉、マージン改善の取り組みの件についてなんですけれども、エネルギーの単価上昇や輸送コスト、いろいろコストアップが出てる中で、価格転嫁に努めていくというご説明の内容だったんですけれども。例えば、今回のいろんな構造変化の中で、いろんなコストが高止まりしてしまう、あるいはそれによって収益が短期間で大きくぶれ得るというリスクに対応するために、価格交渉の仕組み自体を、構造的に変える余地はないのかということなんですけれども。

これまでですと、メタル価格の分を自動的に転嫁する仕組み、ロールマージンという仕組みがベースにあったわけなんですけれども。それ以外の、ベース価格の交渉のところ、今後、マーケットの需給の変化を受けて、変わり得る可能性はあるのか。例えば、日本で難しくても、欧米地域や、あるいは中国からのサプライヤーのプレッシャーが緩和する可能性のあるアジアとか、地域によってももちろん交渉の方向は違うと思うんですけれども、こういった可能性があるかどうかということについて教えてください。

これが1点目です。

2点目は、すみません、販売価格差のご説明の確認なんですけれども、品種構成好転、国内販売量増加と書いてあるんですが、従来の予想と比べると、国内販売量は、若干自動車などで減っている

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ように見えますが、この品種構成の改善というのは、缶材と自動車が減って、厚板が増える見込みであるという点を指しているのか。

このあたりの品種構成の解説をよろしくお願いします。

以上です。

石原：まず、品種構成のところについては、五老さんがおっしゃったことに加えて、例えば、電池の需要ということで、箔材の販売の増加等が含まれています。あと、自動車関連の加工品のところも、まだ実際の黒字にはなっていませんけれども、単体で考えると、地域によって、あるいはお客様によっては、利益が出始めておりますので、それも好転要因になります。

一つ目の、いわゆるロールマージンという考え方に加えて、ベースの価格の決定方式というか、そういったものが新しいものとして考えられないのかというご質問でした。東南アジア、あるいは北米、そういった地域別での体系ということなんでしょうけれども。

少なくとも日本においては、地金というのは、半分以上のお客様が、今ご支給いただいている状況なんです。われわれはそれにロールマージンを乗せて販売すると。その中にも、先ほどの添加金属などの部分であったり、運賃の部分だったり、外になっているんです。

お客様によっては、LME 以外のジャパンプレミアムが内側に入っていますので、できるだけを外出しして、変動する部分はおお客様にご負担いただくということを、引き続き進めてまいります。東南アジア、タイから北米に販売するお客様は、グローバルのお客様が多く、そういった転嫁については、大変ご理解を示していただいておりますので、ベースとなる変動部分というのは、価格体系の中に、これはお客様、個社との交渉にはなりますが、全体的な流れにはなりませんけれども、進んでいくと考えています。

北米は、かなりそれが進んでおりますので、それを変える必要は現時点ではないかと考えます。

五老：ありがとうございます。CO2 削減を契機に、いろいろ供給面での構造変化が起きてきている中で、例えば、最近、鉄鋼業界で日鉄さんのニュースとかが、トヨタとの価格交渉の話が取り上げられたりしているものですから、そういった構造改革をとらえた、それを契機として何か変化があればと思ってご質問させていただきました。

ありがとうございました。以上です。

石原：石原ですけど、今の五老さんのご質問に対して少し補足をしたいんですがよろしいでしょうか。

五老：ありがとうございます。よろしくお願いします。

石原：環境問題を踏まえて、いわゆるアルミ地金を使用するのではなく、リサイクル品を使うということがこれから、われわれにとって必要性が増してくると思うんです。そんな中で、いかに CO2 排出の部分を、アルミが選ばれて利用される段階で CO2 排出抑制が行われ、例えば自動車で、燃費を下げするためにアルミを使う。あるいは、走行安定性を高めて、車の寿命を延ばすためにアルミを使う。という部分で得られる CO2 排出抑制の部分を、どうアルミの素材、あるいはアルミの部品に戻してもらえるか。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

価格だけではなくて、いわゆる CO2 排出抑制のクレジットをどう構築していくかということは、やっぱりアルミ事業にとっては最も大事な、これからの施策だろうと思っておりますので、そこを今度の UBC のクローズドループリサイクルを次のステップとして、そういった CO2 排出量のクレジット化、これをぜひ実現していきたいなと考えております。

これは、アルミ事業にとっては必須だろうと思います。

五老：大変よくわかりました。ありがとうございます。

岡田：ありがとうございました。そろそろ予定の時間が迫ってまいりましたが、ご質問のある方はお知らせください。

それでは、ご質問がございませんようですので、質疑応答を修了させていただきたいと思っております。今後のお問合せにつきましては、IR までお願いいたします。

以上をもちまして、株式会社 UACJ、2021 年度第 2 四半期決算説明会を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。今後とも引き続き弊社をご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

話者：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptpsasia.com